

—2017年度の鋼構造事業についてお聞きしたい。

「17年度は東京五輪関連や『NSエコパイル』を用いた大型案件、座屈拘束ブレース『アンボンドブレース』などハイレベルな受注を達成している。鉄構分野では『TEKLA』を中心としたBIM化を推進しておりタイや中国、インドなど『TEKLA』のオペレーターを有する海外設計事務所を起用することで対応力を強化してきた。また、摩擦ダンパーを用いた屋根制振も実プロジェクトで初適用されている」

「商品分野では球面すべり支承『NS-SSB』の適用範囲を拡張して市場投入しており、大手設計事務所での採用もいただいた。『アンボンドブレース』は大手設計事務所やゼネコンの設計部に加え、準大手ゼネコンへの営業強化を図っており、ビジネスパートナーと組みながら注力している。特に物流施設で

新日鉄住金エンジニアリング

建築・鋼構造事業部の戦略

村上 信行 常務執行役員に聞く ①



の採用が拡大し、免制震デバイスは過去最高の受注額となつてい

鋼構造事業

超高層ビル向け鉄骨

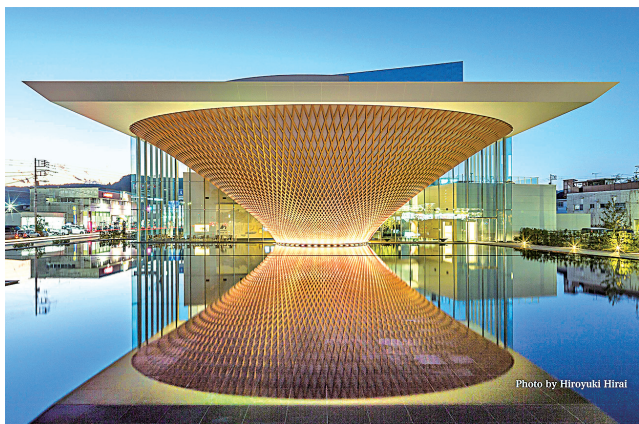
国内能力限界、海外ファブと連携

「さらに、時代のニーズである木鋼ハイブリッド構造についてはコストダウンや提案メニューの拡大などを推進していく。特殊鉄骨については東京五輪関連案件の終了で需要減が見込まれるが、設計事務所に対し設計初期段階からの積極的な設計支援活動を展開していく。また最新の設計ソフトを組み合わせた設計システムを活用し、複雑な

「鉄構分野では過去最高レベルの売上規模に対応する確実なプロジェクトの実行が求められる。ポリウムゾーンである超高層ビル向けの鉄骨は国内ファブの加工能力に限界があるため、東南アジアなど海外のファブリークターとの連携を進めていく。また、BIM化による対応力強化を継続して進めていく」

「鉄構分野では過去最高レベルの売上規模に対応する確実なプロジェクトの実行が求められる。ポリウムゾーンである超高層ビル向けの鉄骨は国内ファブの加工能力に限界があるため、東南アジアなど海外のファブリークターとの連携を進めていく。また、BIM化による対応力強化を継続して進めていく」

「さらに、時代のニーズである木鋼ハイブリッド構造についてはコストダウンや提案メニューの拡大などを推進していく。特殊鉄骨については東京五輪関連案件の終了で需要減が見込まれるが、設計事務所に対し設計初期段階からの積極的な設計支援活動を展開していく。また最新の設計ソフトを組み合わせた設計システムを活用し、複雑な



「さらに、時代のニーズである木鋼ハイブリッド構造についてはコストダウンや提案メニューの拡大などを推進していく。特殊鉄骨については東京五輪関連案件の終了で需要減が見込まれるが、設計事務所に対し設計初期段階からの積極的な設計支援活動を展開していく。また最新の設計ソフトを組み合わせた設計システムを活用し、複雑な